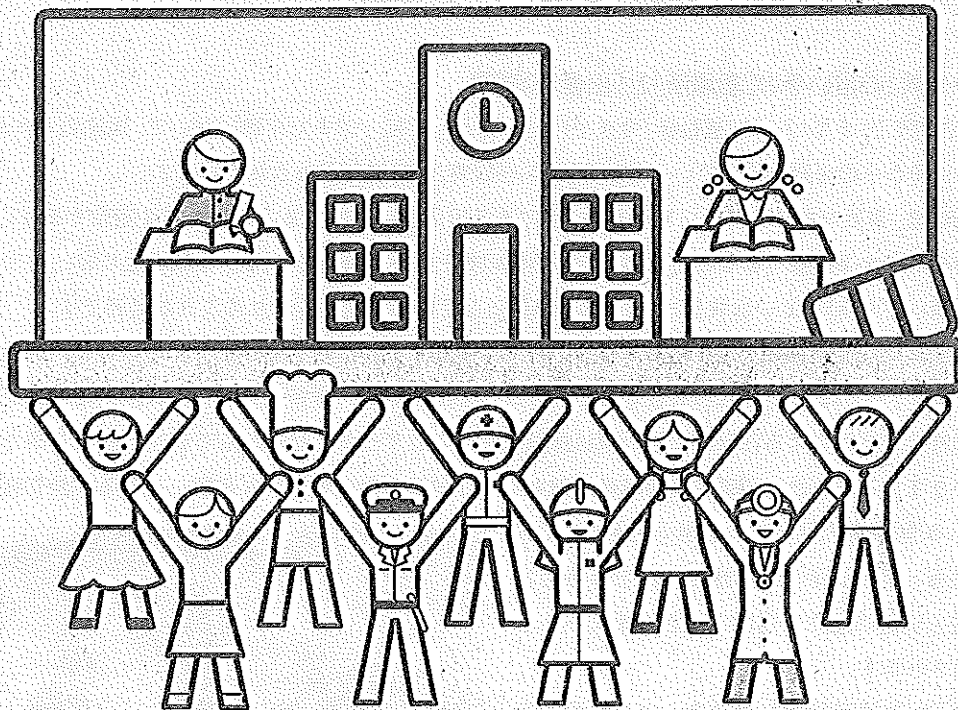


平成21年度

文部科学白書

我が国の教育水準と教育費



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

「図書館の新たな役割」

1. 「図書館海援隊」プロジェクトについて

従来、一部の公立図書館では、来館者に対する情報提供・相談業務を発展させ、地域が抱える様々な課題に対する課題解決支援サービスを実施しています。

平成22年1月5日に、上記サービスに関する知見の豊富な有志の図書館が「図書館海援隊」を結成し、貧困・困窮者に対する支援としてハローワークなどの関係部局と連携しながら、より本格的・継続的にその活動を開始しました。

その後、新たな図書館が加わり、さらに貧困・困窮者支援以外にも地域や住民の課題解決を支援するため、医療機関・保健福祉センター・法テラス等関係部局と連携しながら、医療・健康、福祉、法務等に関する役立つ支援・情報の提供を行っています。

図書館での課題解決支援活動の例として、次のことがあります。

- ・労働・生活に関するトラブル解決に役立つ図書などの紹介・提供や相談会の開催
- ・心の問題、健康に関する図書などの紹介・提供や相談会、講演会等の開催
- ・自己啓発、技術・資格・就職に関する図書などの紹介や提供
- ・行政の支援制度に関する資料などの提供、説明会・セミナーの開催

2. 「新しい公共」の担い手の「居場所」と「出番」の確保

現在、教育や子育て、まちづくり、福祉等、今まで「官」が主として担ってきた分野において、地域の人々が参加し、「官」の代わりにそれらの分野を担っていくという「新しい公共」の実現が求められています。

社会教育施設は、身近な地域のどこにでもあり、誰でもその活動に参加することが可能な施設であること、様々な情報や活動の集中する施設であることなどから、地域の核となり、NPO・大学・企業等とのネットワークにより、地域の課題に 대응する「新しい公共」の中心となる施設として機能強化が図られることが必要です。

特に、図書館には、全国至るところにある施設・様々な情報・その情報を使いこなすための専門的職員(司書)の配置があります。そのため、それらを活かして、行政、市民、NPO、学習グループ、大学、企業等が有する各種の資源を統合し、住民による住民のための地域課題解決に向けてのまとめ役となる新たな役割を果たすことが求められています。このため、図書館海援隊参加館もしくは地域が抱える様々な課題に対する解決支援サービスを実施している図書館が、「新しい公共」を担う人々の連携・情報共有・アドバイスの中核の一つとなることにより、地域の「絆」の強化や活性化にも効果をもたらすものと期待されます。

(「図書館海援隊」参加図書館の連絡先・主な取組内容については参照：http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai_kaitentai/1288150.html)



鳥取県立図書館「困く気持ち応援コーナー」のテープカットの様子
平成22年3月12日